



この壺は満杯か？

校長 濱野 正義

後期開始から、2週間が過ぎようとしています。私の思い「しあわせになあれ」を受け止めて、それぞれの立場で頑張っている君たちに、「2ちゃんねる(現5ちゃんねる)」や「ニコニコ動画」の開設者である西村博之さんが、書籍『1%の努力』の中で紹介している『この壺は満杯か？(作者不詳)』という話を載せます。

教授は「クイズの時間だ」と言って、大きな壺を教壇に置いた。その壺に教授は1つ1つ岩を詰めていきました。岩で壺がいっぱいになると教授は生徒に尋ねました。「この壺は満杯か？」

生徒たちはみんな「はい」と答えました。

教授は「本当かい？」と言いながら今度はバケツに入った砂利を持ちだしました。その砂利を岩の詰まった壺に流し込み、ゆさゆさと壺を振って隙間を埋めていきました。

教授は再び生徒たちに尋ねました。「この壺は満杯か？」 学生たちは答えられず黙っています。

1人の生徒が「たぶん違うと思います」と答えました。教授は笑いながら「そうだ」と言い、今度は砂の入ったバケツを取り出しました。

そして、岩と砂利の詰まった壺に、その砂をさらさらと流しこみました。教授は再び質問します。「この壺は満杯か？」 生徒たちは声を揃えて「いいえ」と答えました。

すると教授は水差しを取り出して岩と砂利と砂の詰まった壺に水を流し込んでいきました。

壺の縁までなみなみと水を注いだ後に生徒たちに最後の質問を投げかけました。

「僕が何を言いたいのかわかるだろうか？」

1人の学生が手を挙げて答えました。「どんなに忙しくてスケジュールが厳しい時でも、最大限に努力をすればいつでも予定を詰め込むことは可能だということです。」

教授はこの回答に「それは違う」と答えました。

「重要なポイントはそこではない。この例が私たちに示してくれる真実は、大きな岩を先に入れない限り、それが入る余地は、その後二度とないということだ」「君たちにとって大きな岩とはなんだろう」と教授は話を続けました。「それは志であったり、愛する人であったり、仕事であったり、家庭であったり、自分の夢であったり。ここで言う大きな岩とは君たちにとって一番大事なものだ。それを最初に壺の中に入れなさい。さもないと君たちはそれを永遠に失うことになる。」

「もし君たちが小さな砂利や砂、つまり自分にとって重要性の低いものから壺を満たしていけば、君たちの人生は重要でない『何か』に満たされたものになるだろう。そして大きな岩、つまり自分にとって一番大事なものに割く時間を失い、その結果、それ自体を失うだろう。」

この大学教授が伝えたかったのは「優先度の高いものから壺(人生)を満たしていけ!」という教訓。自分にとって何が一番重要なのかを考えずに、些細なことばかりに時間をかけて生活している人は多いのではないのでしょうか。ある程度歳をとって、「本当はもっとしたいことがあったのに…」と後悔する大人が多いのも事実です。…ところで、この話には書かれていないことがありますね。読んでいて気づきましたか？

「どのようにして優先度を決定すべきなのか」については、全く触れられていません。

結論から言うと、それは多くの人のお話を聞いたり、本を読んだりして、自分で探すしかないということです。

自分にとっての大きな岩は何ですか？ それを見つけることは、高校生の君たちにとって、最も大切なことです。大いに悩んで、自分にとっての「大きな岩」を探そう。未来の自分がしあわせであるために。

大学入学共通テスト100日前集会

10月5日(木)に58回生の共通テスト100日前集会および進学講演会を行いました。100日前集会では、濱野校長先生と3学年主任の峯先生からの激励の後、生徒を代表して2組の大浦さんが「今まで補習や自学、校内学習会で学習に取り組んできました。徐々に長時間の学習に集中して取り組めるようになってきましたが、模擬試験で点数が出ず焦りや不安を感じている自分もいます。あと100日ですが、今やれることにしっかり取り組み、58回生全員で最後まで志望校合格に向けて頑張りましょう。」と決意を力強く語ってくれました。

また、講演会には宇久高校や長崎県立ろう学校の校長を務められ、現在諫早市立図書館長である石山雅晴先生をお招きし「使命～今を懸命に生きる～」という演題で講演をしていただきました。人それぞれに与えられた使命を自覚し、最高の時の自分を越えるように日々努力していくことについて温かい言葉で語って頂きました。最後は、激励ビデオで佐西生に対する熱い言葉もいただき、お礼の言葉を述べた3組の宮本君をはじめ、改めて気を引き締めて受験勉強に臨む決意をした生徒が多かったです。

これから、受験までの日数が少なくなっていき、焦りや不安を持つ生徒も出てくると思います。しかし、大切なことは「今できることを全力でやりきる」ということです。夢を実現するために、58回生一丸となって頑張っていきましょう。

【キャリア支援部 小佐々】



長崎大学学部説明会・講義体験

10月17日(火)の6・7時間目、本校にて長崎大学との高大連携事業が行われました。この事業は、最先端の研究内容や模擬授業を長崎大学の教授より直に講義して頂けるものであり、本校では毎年高校1年生(本年度は60回生)を対象に行われています。

生徒たちは自分の進路希望に応じて12講座の中から2講座を選択し、各会場で講義を受けました。大学でどのようなことが学べるかを垣間見ることができ、とても刺激を受けたようでした。講義中はメモを取りながら真剣に話を聞く生徒の姿が多く見られ、自身の進路を考える上での有益な機会となっていることが窺えました。

【1学年 中浦】



文理系課題研究 全体発表会（2学年）

10月12日（木）本校にて、「59回生文理系課題研究全体発表会」が開催されました。約半年間、「佐世保×進路探究」の大きなテーマ設定のもと、自分の興味を持った分野（進路）に関する研究を行い、実験・実習の過程で「探究」することを改めて経験し、その集大成の発表会となりました。本発表会は2年生だけではなく、1年生にも発表会を観覧してもらいました。1年生に向けて、スライド発表を行った7つの班は、先日行われた学年選考会を通過してきたこともあり、素晴らしい発表が多く集まりました。これまでに発表資料の再構成をしたり、複数回フィールドワークに行ったこともあり、根拠に基づいた論理的な発表が行われました。特に、「牛乳からプラスチック」の発表を行った班は、牛乳からつくる「カゼインプラスチック」という生分解性のプラスチックの合成実験を行っており、実際にプラスチックの合成を行った行動力などには、感動させられました。このような高校生ならではの視点からアイデアを提案することで、ユニークさに加えて、大人の私たちから見ても感動するものが多かったです。また、ポスター発表を行った41の班も、工夫を凝らしながら1年生に伝えるために短期間で何が出来るかを考えて活動してきました。色ペンを用いて強調する箇所を作ったり、一定の距離からも見える文字の大きさに気を付けたりしていました。

今後は、研修旅行に関する探究活動を行った後、1月頃からは個人探究活動に取り掛かります。ここでは、グループを解体し完全に個人での研究活動を進めていきます。グループ探究で多くのことを学んだ59回生であれば、実り多い個人探究活動になると期待しています。59回生、がんばるぞ。

【2学年 総合的な探究の時間担当】



主な試合などの結果

<陸上部>

- 令和5年度全九州高校体育大会第41回全九州高等学校新人陸上競技大会
100m B決勝 第8位 井手秀悟（1年）
4×100mR B決勝 第4位 岩切裕哉・井手秀悟・大庭遥・山野泰知（すべて1年）

<弓道部>

- 令和5年度長崎県高等学校佐世保地区新人体育大会弓道連盟
女子個人 第5位 2年 岡 紅芽
○させぼスポーツマンス スポーツの部弓道競技
女子団体 優勝（2年 黒木、山口、山内）
男子個人 優勝 2年 筒井巖仁
女子個人 準優勝 2年 黒木結萌、 第3位 2年 小川葉奈



<美術部>

- 赤い羽根クオカードデザイン募集
佳作 2年 福田芽生

<写真部>

- 最優秀賞 「一目惚れ」 2年 大岩奈央（全国大会出場決定）
優良賞 「負けたあ〜」 2年 奥野めい
3年の部 最優秀賞 「一射の重み」 3年 平田 萌

校内持久走記録会の開催について

例年、総合グラウンドで実施していたマラソン大会ですが、生徒の健康・安全を第一に配慮した学校行事の運営ということで、今年度から校内持久走記録会（11月8日）に変更いたします。保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。詳細な日程につきましては、改めてメールメイト等にて連絡いたします。

《11月の予定》

1	(水)	木曜の授業 人生の達人セミナー 長崎県高校駅伝大会開会式	10	(金)	県総文祭開会式
2	(木)	水曜の授業 長崎県高校駅伝大会	11	(土)	佐世保地区公立高等学校PTA研修会
3	(金)	大学別模試（3年）1、2年進研記述	18	(土)	共通テストプレ①（全統）
4	(土)	2年進研記述	19	(日)	共通テストプレ①（全統）
5	(日)	第2回英検2次	21	(水)	赤い羽根共同募金活動（～28日）
8	(水)	校内持久走記録会 育友会研修旅行	22	(木)	後期中間考査時間割発表
9	(木)	デートDV防止講話(2年)	26	(土)	コモンホール学習